

グリーンツーリズム

Greentourism

語り手 谷口 譽憲

聞き手 山本 真紀

企画:高山市

取材日:令和3年11月5日

「グリーンツーリズム」との出会い

ここも農家でな、養蚕でずっと生活しとったんや。父親は、私が4つの時、戦争から帰ってきたんやけど、その後、わりと早くに病気で死んだんや。そういういきさつで、母親ひとりで子どもを育てたもんでな、私は、わりと悪坊主やったんやさな。小さい頃から、いろいろ地域の人に迷惑かけたで、これは何かで恩返ししていかならんと思っでな。過去の行いが悪かったもんで、地域の人に貢献しようって、村を盛り上げていこうって活動を始めて、続けていったんや。元々、自然が大好き。一之宮は山ばかりでしょ。そういうところに憧れも抱いている。実は、趣味も登山なんや。本当に自然が大好きやもんでな。

宮村にスキー場ができた頃から、おふくろが冬だけの民宿を始めました。その頃はかなりのスキーブームで、この居間さえもごろ寝するくらいお客さんがいっぱい来ました。しかし、そのうちに交通のアクセスが良くなって、日帰りで、スキーができるようになってお客さんが、来なくなる。そうすると、だんだん地域も駄目になっていく。そういうことで、何か村を活性化することをやろうかということになった。

自然環境を生かして、なんか地域の活性化ができんかなと思っで。じゃ一何をやろうかっていうことで、考えた時に、ちょうどわが家で民宿をやったもんでな。まずは、その民宿を使う事を考えました。私自身が、高校に勤めたのは23歳から55歳くらいまでの33年くらい。その頃はまだ学校に勤めとったもんで、あまり大々的なことも出来んし、ちょっと陰ながら、学校から帰ってきてこっそり、どう地域を活性化させたら良いか勉強したわけです。このままでは、だんだん地域が駄目になってしまうで、どうしようかと思っでいたら、「グリーンツーリズム」が流行りだしました。だいたい平成8年頃かな。ここの人は、私を含めて、「グリーンツーリズム」っていう言葉さえも知らなんだ。じゃ、「グリーンツーリズム」とは何だということ、「グリーンツーリズム」の勉強に東京やいろんなところに行ったな。農林水産省の東海農政局や県の農業会議等で、いろいろ話を聞いて、宮もやってみようかってことになりました。それが、まあ、ひとつの取り掛かりやったんやな。最初は本当、手探り状態やったな。

生きた田舎体験を

とにかく、まずは、宮村で「グリーンツーリズム」をやってみんかってことで、一緒に活動する民宿の募集をしました。その時に集まった6軒の民宿で「グリーンツーリズム」を始めることにしたのやが、実際、「グリーンツーリズム」をやろうっていったって、何からやっていいのかわからん。そこで、とりあえず春夏秋冬のツアーを組んでみんかってこと



谷口 譽憲

昭和22年11月14日生

プロフィール

大野郡宮村で生まれ、現在に至る。65歳までは、たくさんの役職があったが、少しずつ減らし、現在はほぼなし。長寿会くらいかな。

明るく、楽しく、住みやすい田舎を目指したい。
頑張るぞ!!

になったんや。ひとつ、とにかくやらんことには、駄目やでって。春は、まず、田植えを計画したんやな。そして、他には、山菜採りをメインにしたんやけど、なかなかお客さんは、集まって来ん。最初は1組、2組。本当に少なかった。夏は宮川の川遊びをメイン。岩魚の手掴みや山でカブトムシ捕りなんかも取り入れた。秋には、キノコ狩りや紅葉の散策とか。冬はスキー場もあるでな。冬山体験として、みんなでカマクラを作ってその中でご飯を食べたり、かんじきで山を歩いてウサギなど獣の足跡を探したり。そんなことで、始めは苦勞もあったけど、とりあえず1年間やってみた。

とにかく、どの季節の計画にも必ず食体験を入れた。五平餅、みたらし団子、朴葉寿司や笹寿司、冬は餅つきなんかも取り入れたな。四季のイベントの他、みんなで作って、みんなで食べる体験を必ず入れたわけです。われわれはこういうことに慣れとらんで、四苦八苦して大変やったけども、始めの1年2年はイベントを組んでも、少ない時は、2組から3組だったのが、クチコミからだんだん広がって行って、どんどんお客さんが来て、夏は50人を超えることもあった。そんなことで、だんだんお客さんが増えていったんや。そのうちに食体験にも、昔から飛騨に伝わる郷土料理も取り入れていった。アブラエとかな。やっぱり、ちょっとした文化も取り入れたいって気持ちがあったもんでな。地域の年寄りから習ったり、実際に年寄りに来てもらったりして昔の食べ物も教えてもらったな。種もみのもみの殻を取った玄米をフライパンで醤油と砂糖で煎った「ヤコメ」なんかも取り入れました。食体験だけではなく、工芸体験もやりましたよ。例えば、「笠ひで」を使って、簡単な馬や蛙を作る体験とか。とにかく地域の古い物を残したいって気持ちがあったもんで、そういう事はいろいろやってきた。

「グリーンツーリズム大賞」受賞

そんで、まあ、何年か「グリーンツーリズム」続けてやっているうちに、2004年(平成16年)にわれわれの「グリーン体験宿」が、第1回毎日新聞グリーンツーリズム大賞を受賞したんやさ。それで、自分達の活動が認められたってことで、みんなやる気になったんや。その影響もあって、関わっていた民宿6軒が、9軒に増えたんや。「どぶろく特区」に認定もされたな。高山市の第1号は荘川で宮が2号。民宿の4軒が「どぶろく」を作ったな。だが、民宿の人達もだんだん高齢になってまって、しんどいな、えらいなってことになってきたんや。実は、どこの民宿も後継者がおらんやさ。このままの状態では、体力的にもツアーを続けることは大変やなって事で、民宿ごとで、オリジナルの体験メニューを作って、それぞれの宿で個別にやろうってことになったんや。

うちの民宿の場合は、修学旅行も来る。農業体験では、春やったら、野菜の苗の植え付け。夏や秋は収穫。裏山での林業体験として危なくないようにして、枝打ちや間伐、薪作りをする。自然体験では、山の散策、植物なんかの説明。工芸体験なら、山から採ってきた材料を使ったリー



やまあいの宿 甚左衛門



ス作り、雨の時はマイ箸作り、あとは、草木染めなんか。草木染めは、修学旅行の女の子なんかは喜ぶな。食体験では、即席の魚の燻製なんかもやっとなるな。オープン式のピザ窯もある。自分の手で捏ねて、発酵させて、そこら辺の植物を採ってきて乗せて焼く。夜は、星が綺麗やしさ。あえて、こういう田舎だから、「闇体験」って言って街灯のない本当の真っ暗な中を 40 分から 50 分くらい歩く。こういう体験もやったよ。高校では農業、林業、土木関係を教えたな。作物を育てたり、山行って仕事したり、そういうことは、ようわかるもんで、「グリーンツーリズム」の体験学習なんかでは、強味になったな。高校生と過ごしていたから、修学旅行生の相手も慣れておる。今までの全ての経験が繋がって、体験活動に生かされたな。まあ、今は、こんな風に、それぞれの宿ごとでやってます。

やっぱり、何といてもお客さんとの出会いが一番だね。中には、30 年来のお客さんもいるんやよ。そうやってリピーターが増えて、親しくなるのがいいね。「体験して本当に良かったよ」と言われると本当に嬉しい。修学旅行でいろんな体験した子が、高校を卒業して何年後後に、奥さんと一緒に来てくれたこともあったが、そういうのも本当に嬉しい。囲炉裏を囲んでお客さんと一緒に酒を飲みながら交流するのもいいね。「また、来たぞ。まだ生きとったか？」っていう交流が嬉しいな。



燻製器「源流スモーク」

アニメの聖地

2017 年の水無神社の大祭では、氏子総代長で副総裁をやった。何しろ、57 年ぶりの大祭。過去のことがあまりわからんもんで、大祭の前、2 年間は毎日、神社詰めやったな。例えば、笏を櫨の木で作るには、まず、櫨の木を乾燥させなくてはならんもんで、2 年前から、櫨の木を切って乾燥させて準備したんや。そういう事も全くわからず、本当に大変やったな。自分でも、ようやったと思って。大変やったけど、こういう形で大祭に関われたことは本当にありがたかった。

15 年間ほど、宮村の観光協会長をやったな。「臥龍桜・桜祭り」や村のイベント全て関わってきた。水無神社の「生きびな祭」など関係するイベントは、観光協会で作ってきた。実は、去年(2021 年)が、70 回目の「生き雛」だったんやさ。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、大きなイベントは出来なかった。そのうちに何か、大きなイベントが出来るといいなと思う。

「生きびな祭」といえば、米澤穂信さんの書いた「氷菓」という小説の中にも、「生き雛」のことが出てきて、アニメ化もされたな。だが、この「氷菓」の前に、宮村を舞台にした PC ゲームからアニメになった「星空に架かる橋」という作品もあるんや。「星空に架かる橋」の主人公が、この民宿の 2 階に泊まる場面があるもんで、このアニメと同じ部屋で泊めてほしいって来るお客さんもいる。今でも、アニメファンが訪ねてくることがあるよ。そういうこともあって、うちの民宿は、別名「オタクの宿」とも言われとる。とにかく、この 2 つのアニメ作品のおかげでこの地区は、アニメの聖地巡礼でも大いに盛り上がったんや。



高山市天然記念物バイカモ

以前は、高山市天然記念物になつとるバイカモは、水無神社の前の川にあったんやけど、護岸工事してから水の流れが速くなってしまって、根付く前にみんな流れてしまって、絶えつつあるんや。「バイカモを守る会」の人達も毎回毎回、大変な思いで作業にあたつとるな。毎年、宮小学校の5年生と協力して、建設省（国土交通省）からの補助を使って、毎回バイカモを植えるけど、水の流れが速くなってしまうと、やっぱり流されてしまって、結局は駄目なんや。そして、バイカモは伏流水がないと育たんでな。本当に綺麗な水じゃないと、育たん植物なんや。

今まで内緒にしとったんやけど、この民宿の近くに昔からバイカモの自生しとる所があるんやさ。その場所を一之宮支所が見つけた。そのことを、テレビや新聞が取材に出すやろ、そしたら、いろんな人が、この宿を訪ねてくる。なかなかわかりにくい場所にバイカモがあるもんで、場所を聞きに来る。それで、いろんな人にバイカモの場所の説明やバイカモの話をしたんや。今年は、バイカモのことで訪ねてくる人の対応が、多くて大変やったな。だけど、まあ、水無神社のバイカモが無くなったもんで、今度はここかなと思ってる。この民宿の溜め池にもバイカモがだんだん増えていっとる。



自作のピザ窯

豊富な地域資源

戦後すぐ父が亡くなり、わが家は男手がなく、おふくろには、収入源がないもんで、宮村がスキー場を始めた時に、冬だけスキー客を泊めてみようかと思って民宿を始めた。始めた頃は、民宿なんてそんな面倒くさいことやるかって思っていた。途中で、はや、こんな古い家なんか壊して、新しくペンションかなんかやった方が良く考えた時代もあったんやよ。そうしたら、「あそこの兄が古い家を潰してペンションするような話をしとるぞ」って。こんな小さい村やで、すぐにわかるんや。そしてさ、年寄りにど叱られてさ。「お前、何考えとるんや。こんな家を壊して、お前、どういうことじゃ」って叱られて。しょうがないなと思っておったけど、今思えば、良かったな。本当に。この民宿を残しておいて良かったと思うな。

最近の若い人は、酒飲まんようになったな。もしかしたら、年寄りと酒を飲むのが嫌なだけかもしれんけど。まあ、それもあるやろうな。私は、小さい頃に父親を亡くして、自分自身が、若い時から地域の大人との付き合いをずっとしてきたもんでな。やっぱり、本当、そういうことの大事さが良くわかるんやさ。そりゃ、嫌な時もあるけども、いろんな年の人と話して勉強していかんならんのやで。お酒の場で学ぶ事が多くある。元々、この地区には、月に1回の常会ってのがあるんや。他の地域はやらんところもいっぱいあるけど、この地域は絶対に常会をやる。最近は、コロナで酒が飲めんかったけど、ああいう場での会話ってのは、一番大事。こんなことを言うと、また、「年寄りがいらんことを」って言われるけど。

ここ最近、山もほかりっぱなしにしとるけど、あちこちで災害が起きるので、そういう対策も含めて色々やろうよって言う。最近、鹿がイチイの木の皮を食べる獣害が増えてきて、有志の「イチイを守る会」でイチイの木の保護活動もしとるよ。

2021年に宮トンネルが出来て、便利になった。これからは、宮峠で分けずに、宮と久々野がひとつになって地域活性化していかんことには駄目やと思う。船山、位山、川上岳かおれだけの三山をシンボルとして、一緒に盛り上げていくようなことができるといいな。例えば、宮には果樹園がないけど、久々野には果樹園がある。こうやって、地域資源を生かしながら、ふたつの地区が一緒になってPRすると、より効果があると思う。自分のところだけではなく、協力してやっていくことは大事な。

まあ、もうちょっと若けりゃな、もっと、張り切ってやれるんやけどな。どうしても年にはかなわんぞ。75歳になると、体がえらいよ。気持ちはまだ大丈夫なんやけど、体力的には、駄目やな。一之宮には、こういう素晴らしい景色があるもんで、体力が許すなら、山の中にバンガローを作ったり、アウトドア的なものをどんどんやったりしてみたいね。ツリーハウスも作りかけのままになっとるしさ。



甚左衛門の居間

どこにも負けんフィールド

でも、まあ、どの民宿にも後継ぎがおらんって事が残念なことや。「地域おこし協力隊」の人達が、高山市でも活動しておったので、高山市に、是非、宮地区にもひとり派遣をお願いしたいって言ったら、宮地区は過疎地じゃないで駄目やって言われた。残念やったな。本当は「グリーンツーリズム」にそういうよその人を入れたかったのよ。元々、昔からここにおる者だけでやるより、よそからぼんと入ってきた人の方がいろんな新しい発想があるもんで。そういう人が欲しかったな。

とにかく、自然の景色を代々ずっとこのままでつないでいてほしいな。要は、環境を綺麗にしてほしいってことやな。山でも、ほかっておくのではなく、適切な手入れをする。そしたら、災害にも強くなると思う。それと、伝統文化をしっかりと守ってほしいな。いろんなことを思うけど、年取ってきたらそういうことだけを願っとるな。位山は、登山者が多くてありがたいことやと思うよ。位山には、珍しい巨石とか巨木があるんで、訪れた人に見てもらえると良いな。新しい巨石も、まだまだあるで、遊歩道をつけたいと思うね。なんていったって、ここには、神通川の源流がある。宮地区は、地域資源の宝庫なんや。自然そのものの所がいっぱいあるし、伝統文化も多いし、セールスポイントは本当にたくさんあるでな。

本当、やりたいことばかり。やけど、年だな、と思って。やっぱり、若い人にいろんなことを受け継いでいかんとな。本当に「グリーンツーリズム」とか、自然を生かす事を本当にやりたい人がいるなら、「即、この民宿を使ってよ」と思っとるんやけどな。女房とふたりで話し合っ、こういうことに関心のある人がいたら、すぐ、譲ろうって事にしとるんや。

せっかく、こんな自然があって建物もあるんやで、できれば継承してやってほしいなと思っとるんや。やっぱり、このフィールドを生かさないと、もったいないなって思うんや。一之宮は、どこにも負けん良いフィールドやと思っとるし、これを都会の人に知らせてやりたいって思う。本当に、どこに行っても一之宮は綺麗なんやさ。草も綺麗に刈ってあるしな。とにかく、地域の活性化っていうのは、地域を綺麗にしなくては、誰も来んのやで、綺麗にしんかと。とにかく住んどるまちを綺麗にしようよ。これは、一番大事なことやよ。

